

沖縄振興開発金融公庫

http://www.okinawakouko.go.jp/

1. 財政投融資を活用している事業の主な内容

沖縄における産業の開発を促進するため、長期資金を供給すること等により、一般の金融機関が行う金融及び民間投資の補完・奨励を行っている。また、事業に必要な資金のほか、教育、住宅、医療等あらゆる分野へ一般の金融機関が提供することを困難とする資金を供給している。
(参考)財投対象外の事業としては、社会資本整備貸付の一部(いわゆるNTT-C)等がある。

2. 財政投融資計画額等

(単位:億円)

28年度財政投融資計画額	27年度末財政投融資残高見込み
804	5,299

3. 当該事業に関する政策コスト分析の試算値

① 政策コスト

(単位:億円)

区 分	27年度	28年度	増 減
1.国からの補助金等	17	13	△4
2.国への資金移転	△349	△335	+15
1～2 小計	△332	△321	+11
3.国からの出資金等の機会費用分	292	331	+39
1～3 小計	△40	10	+50
4.欠損金の増減分	-	-	-
1～4 合計=政策コスト(A)	△40	10	+50
分析期間(年)	37	37	-

② 投入時点別政策コスト内訳

(単位:億円)

区 分	27年度	28年度	増 減
(A) 政策コスト【再掲】	△40	10	+50
① 分析期首までに投入された出資金等の機会費用分	283	323	+40
② 分析期間中に新たに見込まれる政策コスト	△323	△312	+11
国からの補助金等	17	13	△4
国への資金移転	△349	△335	+15
剰余金等の増減に伴う政策コスト	△1	△1	△0
出資金等の機会費用分	10	9	△1

<参考> 補助金・出資金等の28年度予算計上額

補助金等 10 億円
出資金等 23 億円

③ 経年比較分析

(単位:億円)

区 分	27年度	28年度	増 減
(A) 政策コスト【再掲】	△40	10	+50
(A') (A)を27年度分析と同じ前提金利で再計算した政策コスト	△40	7	+47
(B) (A')のうち28年度以降に発生する政策コスト	△50	7	+57
28年度の政策コストは10億円である。27年度と28年度の前提金利の変化による影響を捨象し、28年度以降に発生する政策コストを比較すると、実質的な政策コストは27年度から57億円増加したと分析される。このような実質的なコスト増は、以下の要因によるものと考えられる。			
<ul style="list-style-type: none"> 繰上償還の影響によるコスト増 : +39億円 その他(事務費の増等) : +18億円 			

④ 発生要因別政策コスト内訳

(単位:億円)

(A) 28年度政策コスト【再掲】	10
① 繰上償還	180
② 貸倒	164
③ その他(利ざや等)	△334

⑤ 感応度分析(前提条件を変化させた場合)

(単位:億円)

変化させた前提条件とその変化幅	政策コスト(増減額)
貸付及び調達金利+1%	92(+82)
増減額のうち機会費用の増減額	+141
貸倒償却額+10%	26(+16)
増減額のうち機会費用の増減額	-

4. 分析における試算の概要及び将来の事業見通し等の考え方

- ①出融資事業のうち、財政投融資以外の特定財源のみによる融資(社会資本整備貸付の一部(いわゆるNTT-C)等)を除いた事業を試算の対象としている。
- ②既往の出融資残高8,280億円(平成27年度末見込み)に加え、平成28年度の事業計画1,444億円(融資1,425億円、出資19億円)を実行した場合について試算している。
- ③分析期間については、平成28年度の事業計画に基づく貸付金がすべて回収されるまでの37年間となっている。
- ④繰上償還については、期首残高に対し一定割合(住宅資金:10.45%、住宅資金以外:3.11%/過去5年間の実績平均)での繰上償還がされるものとして試算している。
- ⑤貸付金償却については、期首残高に対し一定割合(0.29%(住宅資金:0.02%、住宅資金以外:0.43%)/過去5年間の実績平均)での貸倒の発生を見込んだ額を計上している。

(単位:%)

年 度	(実績)					(見込)	(概算)	(試算前提)			
	22	23	24	25	26	27	28	29	30	...	
繰上償還率	住宅資金	9.11	11.97	12.37	10.44	8.35	9.61	7.93	10.45	10.45	10.45
	住宅以外	2.09	1.98	2.72	5.06	3.70	2.27	2.49	3.11	3.11	3.11
貸付金償却率		0.26	0.19	0.33	0.31	0.36	0.41	0.40	0.29	0.29	0.29

※各欄は単位未満四捨五入の端数処理により、合計において合致しない場合がある。

5. 補助金等が投入される理由、仕組み、国庫納付根拠法令等

沖縄における経済の振興及び開発に資することを目的とし、一般の金融機関が融通することを困難とするものを、長期・低利で融通するための経費等を補填するため、一般会計及び特別会計から補給金等を受け入れている。

(1) 補給金・補助金としては、主に①業務の円滑な運営に資するため、当該年度における公庫の事業計画等を基礎に計算した損益収支上の不足額を一般会計より受け入れる「収支差補給金」、②地域の特性を活かした雇用創造の取組を行う企業の事業拡大等への低利融資に係る「利子補給金」(雇用保険法第62条第1項第5号「前各号に掲げるもののほか、障害者その他就職が特に困難な者の雇入れの促進、……厚生労働省令で定めるものを行うこと。」、雇用保険法施行規則第140条第1項第5号「前四号に掲げるもののほか、同意自発雇用創造地域における雇用の創造に資する事業」、③電源地域における企業立地促進のための低利融資を行う場合の金利差を補填するため、エネルギー対策特別会計(電源開発促進勘定)より受け入れる「補助金」(特別会計に関する法律施行令第51条第1項第20号「発電用施設の設置がその区域内において行われ、若しくは行われることが見込まれる市町村、これに隣接する市町村又は当該隣接する市町村に隣接する市町村の区域内における産業の振興に資する措置であって、……所管大臣が定める者が行うものに要する費用に係る補助金の交付」、文部科学省・経済産業省告示第5号「特別会計に関する法律施行令第51条第1項第20号の規定に基づき、同号の所管大臣が定める者を次のように定め、……6 沖縄振興開発金融公庫……」)等がある。

(2) 出資金としては、①公庫の経営基盤の強化を図るため、一般会計より受け入れる「出資金」(沖縄振興開発金融公庫法第4条第2項「政府は、予算で定める金額の範囲内において、公庫に追加して出資することができる。」)及び②県内産業の育成並びに企業等の様々な事業展開や事業再構築を支援するため、民間企業等への出資の原資を財政投融资特別会計(投資勘定)より受け入れる「出資金」(沖縄振興開発金融公庫法第4条第2項「前掲に同じ。」)がある。

(3) 国庫納付については、沖縄振興開発金融公庫法において定められている(沖縄振興開発金融公庫法第25条第1項「公庫は、毎事業年度の損益計算上利益金を生じたときは、これを翌事業年度の5月31日までに国庫に納付しなければならない。」)。

6. 特記事項など

① 今回、前提とした金利の下では、政策コストは10億円となっているが、貸付及び調達金利を1%上昇させた場合、政策コストは82億円増加しており、公庫においては、金利水準が政策コストに与える影響が大きなものとなっている。

② 「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年6月2日法律第47号)により、平成34年度以降(注)において、株式会社日本政策金融公庫に統合することとなっている。

(注)「沖縄振興特別措置法の一部を改正する法律」(平成24年3月31日法律第13号)により、「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」が一部改正され、10年間延長されたことによるものである。

(参考)当該事業の成果、社会・経済的便益など

① 出融資実績

i. 融資実績(平成26年度)	6千件	1,300億円
ii. 融資実績(昭和47年度～平成26年度累計)	43万件	5兆9,827億円
・産業開発資金		1兆6,876億円
・中小企業等資金		1兆8,998億円
・住宅資金		1兆9,697億円
・農林漁業資金		2,058億円
・その他		2,198億円
iii. 融資残高(平成26年度末)	5万4千件	8,152億円
iv. 出資実績(平成26年度)	5件	13億円
v. 出資実績(昭和53年度～平成26年度累計)	85件	65億円

② 地域に根ざした総合公庫

・地域限定の政策金融機関として、日本公庫等の業務を一元的・総合的に実施するほか、沖縄の特殊事情に則した独自制度を整備・活用し、沖縄振興に貢献。

・県民・企業の多種多様な資金ニーズに対し、適切な政策金融機能をワンストップで提供。

・事業者にとって、投資回収に長期を要する設備投資分野では公庫の長期・固定資金が活用され、日々の事業活動に必要な運転資金は(メインバンクである)民間金融機関が供給。

[設備資金:公庫の県内シェア25%、運転資金:公庫の県内シェア9%(平成26年度末)]

・沖縄独自制度を活用し、沖縄における新たな事業の創出・促進による雇用の安定・確保に貢献。

[沖縄創業者等支援貸付及び新事業創出促進出資による雇用効果(平成26年度):535人]

③ セーフティネット関連貸付による雇用喪失防止

台風災害や社会・経済的動向の急変など突発的な外的影響を緩和するセーフティネット機能を発揮することで、企業を資金面から支え、雇用喪失防止に貢献。

[セーフティネット関連貸付による雇用喪失防止効果(平成26年度):7,184人]

(参考)貸借対照表、損益計算書

貸借対照表 (単位：百万円)

科目	26年度末実績	27年度末見込	28年度末計画	科目	26年度末実績	27年度末見込	28年度末計画
(資産の部)				(負債及び純資産の部)			
貸付金	815,100	817,853	815,615	借入金	543,832	529,417	528,441
出資	5,994	7,934	9,834	財政融資資金借入金	532,462	518,130	516,930
現金預け	22,728	14,754	14,682	産業投資借入金	1,112	683	385
有価証券	100	2,200	2,200	一般会計借入金	33	14	0
代理店勘定	326	326	326	独立行政法人労働者退職金共済機構借入金	10,225	10,590	11,126
未収収益	1,125	1,047	969	債権	164,239	164,317	166,513
未収貸付金利息	1,123	1,045	967	沖繩振興開発金融公庫債券	163,000	163,000	165,000
未収受託手数料	1	1	1	住宅宅地債券	1,239	1,317	1,513
未収有価証券利息	0	1	1	債券発行差額	△ 10	△ 6	△ 3
雑勘定	18	18	18	寄託金	3	10	20
固定資産	6,491	6,373	6,319	貸付受入金	52,711	61,940	57,822
保証債務見返	1	1	1	未払費用	1,799	1,838	1,734
貸倒引当金	△ 8,992	△ 9,908	△ 10,042	未払借入金利息	1,222	1,247	1,119
				未払債券利息	536	551	573
				未払寄託金利息	0	-	-
				未払業務委託費	22	21	24
				未払社会保険料	19	19	19
				雑勘定	132	133	132
				賞与引当金	146	146	146
				退職給付引当金	2,452	2,452	2,452
				保証債務	1	1	1
				(負債合計)	765,304	760,247	757,258
				資本	75,828	78,628	80,928
				一般会計出資金	45,218	45,318	45,318
				承継出資金	21,556	21,556	21,556
				産業投資出資金	9,054	11,754	14,054
				積立			
				米穀資金・新事業創出促進積立金	1,725	1,758	1,723
				当期未処分利益又は当期未処理損失(△)	33	△ 35	13
				(純資産合計)	77,586	80,351	82,664
資産合計	842,890	840,598	839,922	負債・純資産合計	842,890	840,598	839,922

(注) 1. 貸借対照表には、政策コスト分析対象外事業に係る金額を含む。
2. 四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

損益計算書 (単位：百万円)

科目	26年度実績	27年度見込	28年度計画	科目	26年度実績	27年度見込	28年度計画
(損失の部)				(利益の部)			
経常費用	25,890	25,957	26,844	経常収益	25,923	25,922	26,857
借入金利息	6,654	5,270	5,690	貸付金利息	15,972	15,800	15,909
債券利息	2,669	2,433	2,711	受取配当金	10	15	15
寄託金利息	0	0	-	住宅資金貸付手数料等収入	7	18	14
受託金支払利息	-	1	1	受託手数料	8	8	8
業務委託費	91	141	153	一般会計より受入	77	1,044	970
事務費	4,049	4,446	4,544	エネルギー対策特別会計より受入	10	9	8
債券発行諸費	47	55	114	労働保険特別会計より受入	-	0	-
償却費	3,133	3,493	3,439	有価証券利益			
貸付金償却	2,954	3,310	3,297	有価証券利息	1	1	9
固定資産減価償却費	180	183	142	雑収入	77	35	17
貸倒引当金繰入	8,992	9,908	10,042	貸倒引当金戻入	9,761	8,992	9,908
雑損	254	60	-	当期損失金	-	35	-
予備金	-	150	150				
当期利益	33	-	13				
合計	25,923	25,957	26,857	合計	25,923	25,957	26,857

(注) 四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

(参考)民間企業仮定貸借対照表、民間企業仮定損益計算書

民間企業仮定貸借対照表

(単位：百万円)

科目	平成26年度末	科目	平成26年度末
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	23,054	借入金	543,835
現預金	10	債券	164,229
預け金	23,045	その他の負債	2,977
有価証券	5,324	未払費用	1,799
株式	5,224	その他の負債	1,178
債	100	賞与引当金	146
貸出金	762,344	退職給付引当金	2,452
手形貸付	1,077	支払承諾	1
証書貸付	813,978	(負債の部合計)	713,639
未貸付額	△ 52,711	(純資産の部)	
その他の資産	1,154	資本金	75,828
未収収益	1,068	利益剰余金	146
その他の資産	86	その他利益剰余金	146
有形固定資産	7,411	<small>※親資金・新事業創出促進積立金</small>	1,725
建物	6,158	繰越利益剰余金	△ 1,579
土地	3,059	(純資産の部合計)	75,974
その他の有形固定資産	2,254		
減価償却累計額	△ 4,060		
無形固定資産	494		
ソフトウェア	282		
ソフトウェア仮勘定	212		
支払承諾見返	1		
貸倒引当金	△ 10,170		
資産の部合計	789,613	負債及び純資産の部合計	789,613

(注) 四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

民間企業仮定損益計算書(単位：百万円)

科目	平成26年度
(経常収益)	16,405
資金運用収益	16,235
貸出金利息	16,224
有価証券利息配当金	10
その他の受入利息	1
役員取引等収益	15
国庫補助金収入	10
政府補給金収入	77
その他経常収益	68
(経常費用)	16,744
資金調達費用	9,323
借入金利息	6,654
債券利息	2,669
役員取引等費用	91
その他業務費用	47
業務経費	4,215
その他経常費用	3,067
貸倒引当金繰入額	2,011
貸出金償却	727
株式等償却	81
その他の経常費用	248
(経常損失)	339
(特別利益)	-
(特別損失)	23
固定資産処分損失	6
減損損失	18
当期純損失	362